

消しゴムころりん（3上）

<本稿の構成>

- I 目標
- II 学習材について
- III 学習活動計画
- IV・V 本時の学習（第2時，第3・4時）
- VI 学習後の感想・ワークシート例

I 目標

- 1 場面の移り変わりや情景を，叙述に即して想像しながら読むこと。
- 2 読み取った内容について自分の考えをまとめ，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

II 学習材について

物語の主人公が自分たちと同じ年ごろであり，場面設定が作文の時間であるなど，自分たちのまわりにも起きそうな話であることから子供たちはすぐにお話の世界に入っていく。特にやもりがさおりにジェスチャーで何か伝えようとする場面は，子供たちの心を引きつけ印象に残るようだ。3年生という時期だからこそ“自分たちにもこんなことが起こったらいいな”とわくわくしながら物語の世界に入って読んでいくことができる。このような物語のおもしろさを活動につなげ，物語の楽しみ方を身に付けさせたい。その方法として，「消しゴムころりん劇場」を単元に位置づけ，動作化しながらお話を読んでいくという展開とした。この物語は，話し言葉が少なく動作・様子を表した表現が多いことも登場人物のやりとりを再現するのに適している。

1 場面はシナリオを作ってゆきひろとさおりのやりとりを再現する。ここでは最初からシナリオを全て作るのではなく，ポイントになる部分を補う形のワークシートを用意し，子供たちが徐々に劇化していく要領をつかめる展開とする。

子供たちが最も興味深く読んでいく2の場面はシナリオ作りに限らず教科書に線を引いたり，心のつぶやきも音声化しながらお話を再現していく。この劇化の活動を通して子供たちは「消しゴムころりん劇場」をよりよくするためには，様子を表す言葉に気をつけて読むことが大切だと気づき，主体的に言葉に目を向けていくようになると考える。また，この活動を通してさおりやゆきひろの心の動きを考え友達と交流していくことも大切にしたい。そのために，グループの発表をきっかけとして登場人物の気持ちを想像することを促すよう意図的にかかわっていく。

このような学習を通して，様子を表す言葉に気をつけて読んでいくと，登場人物の気持ちがわかってくるという物語の読み方を一つ身につけることをこの単元のねらいとする。

Ⅲ 学習活動計画（全9時間 ……内話す聞く 1時間，書く 2時間）

時間	学習活動
第1時	○全文を通読し初発の感想を交流する。
第2時	○学習の見通しを持つ。新出漢字を練習する。
第3時	○シナリオシートを使ってさおりが消しゴムを穴に落とす様子を再現し、ゆきひろに対するさおりの気持ちを想像する。
第4・5時	○シナリオシートを使ってさおりとやもりのやりとりを再現し、やもりの言葉を想像する。
第6・7時	○消しゴムを使って驚くさおりとそれを見ていたゆきひろのやりとりについて感じたことを交流する。
第8・9時	○てびきから好きな方法を選んで物語を楽しむ。

Ⅳ 本時の学習（第2時）

(1) 目標

○シナリオシートを使ってさおりが消しゴムを穴に落とす様子を再現する活動を通し、ゆきひろに対するさおりの気持ちを想像する。

(2) 学習過程

学習活動	教師のかかわり
（先生・子供）『『消しゴムころりん劇場』“消しゴムが穴に落ちちゃった編”を劇にしよう！』 1 シナリオシートにさおりとゆきひろの様子を書き、シナリオを完成する。 まわりを見回す→目が合う→あわてて目をそらせ考えるふり 2 シナリオをもとに、二人のやりとりを再現してみる。 （4人グループの場合） さおり役 ゆきひろ役 ナレーター 監督 （先生）「さおりはなぜむっとしたのかな？」 （子供）「ゆきひろが見ていたのになにも言わないから。」「見ないふりをして一人で笑ったから。」「自分だったらどうしたのって話しかけるよ。」「どうしてゆきひろはなにも言わなかったのかな。」	●P8～P9 L12 までであることを子供と見つける。 ●シートに書けない子にはさおりとゆきひろの様子を表す言葉に線を引かせる。 ●思いつかない子には、自分がゆきひろだったらなんというか考えさせて比べさせる。 ●二人の関係について考え、次時への期待をもたせる。

V 本時の学習 (第3・4時)

(1)目標

○さおりとやもりの不思議なやりとりを再現することをとおして、やもりの言葉を想像する。

(2)学習過程

学習活動	教師のかかわり
(先生・子供)『消しゴムころりん劇場』“さおりとやもりの不思議なやりとり編”をしよう！」 1 グループで役割分担をする。……さおり役、やもり役、ナレーター、監督(動作をアドバイス) 両足がうきあがり、声が出そうに あわてて首をふった がくがくとうなずく まよっている ほほえんでうなずいた ……様子を表す言葉 2 グループごとの発表をつなげ、全体をとおしてみる。 (子供)「やもりは何を伝えようとしているのかな?」「やもりの動きを表す言葉のとおりやってみるといいよ。」 もし、やもりが言葉を話したら、さおりになんて言ったかな? (子供)「この消しゴムは、本当のことは消えないよ。」「本当はゆきひろのこと、好きなんだろう?」	●心のつぶやきも音声化することにする。二人の心のつぶやきに線を引かせる。 ●シナリオは自由に使えるように用意しておく。 ●気づいたことを交流しながら進めていく。 ●ワークシートに書いて、それぞれが自分の考えを持てるようにする。

VI 学習後の感想・ワークシート例

感想

- 「さおりとゆきひろの巻」の最後のところの言葉を想像して書いていくのがおもしろかったです。さおりは最初はゆきひろのことが嫌いだったけど、あとからゆきひろのことを好きだとわかる文がおもしろかった。最後にゆきひろが正直に自分の気持ちを言ったのでよかったです。
- 消しゴムころりんを劇にしたところが楽しかったです。最後のところで「ゆきひろのことが好き」というところは、ナレーションをしながら笑っちゃいそうなのをがんばって笑わないようにしました。今までの国語の勉強の中でも特に楽しかったです。
- ゆきひろとさおりが最初はどんな人なのかわからなかったよ。でも、読んで劇にしていこううちにわかってきたよ。ゆきひろとさおりは本当はなかよしなんだな。

勉強する時に気をつけた言葉

- かぎかっこの言葉を読むとき、その人が本当に言っているように工夫した。
- 身ぶりや動作を表す言葉に気をつけて読んだ。

<ワークシート例> (縦書き)

消しゴムころりんげき場 1

名前 ()

さおりとゆきひろの様子をつけたし、台本をかんせいさせよう！

場面 ()

さおり とっくに書き上げてつくえの上で消しゴムをころがして遊んでいる。

さおり 「あ。」

消しゴムは、ゆかいたのあなに落ちる。

さおり ()

右どなりのゆきひろと目が合う。

ゆきひろ ()

さおり ()

なぜ、さおりはむっとしたのかな？